

狂言謡のひとり稽古を支援するエディタの設計・開発 Design and Development of the Editor Supporting Self-Practice of *Kyogen Uta*

学籍番号 08602 氏名 塩澤 隆允

指導教員主査 吉野 純一
副査 市村 洋

1. はじめに

狂言は、能と一緒に演じられることが多く、台詞を主体とした日本伝統芸能の一つである。狂言は台詞と所作から構成され、最初の稽古は謡と舞からなる小舞から始まる。

筆者らは日本伝統芸能の普及を目的として狂言を事例としたIT活用法の研究を行っている^[1]。狂言などの伝統芸能は、対面での直接指導が伝統的にとられており、プロを目指す者にとっての稽古方法となっている。しかし、伝統芸能を教養としてたしなむ者にとっては、稽古を受けたくとも受けられないことが多々あり、対面による稽古のみでの上達は難しい。そのため、伝統芸能の普及のためには、ひとり稽古法が重要となる。そこで、狂言の普及を目的に、狂言を教養としてたしなむ者を対象とし、ITを活用した稽古法を提案する。狂言の稽古には台詞と所作の2つがあり、ここでは台詞特に謡を対象とする。

2. 狂言謡のひとり稽古支援システム

狂言謡のひとり稽古支援システム設計の際、共同研究者であり大蔵流善竹十郎門下の狂言師野島から、狂言の稽古方法や謡についてのヒアリングを行った。そこから、謡の稽古方法が把握でき、システム設計の基本指針を決定した。

2.1 謡の稽古方法

師匠からの稽古では、師匠が謡った後に繰り返すことが中心である。狂言師は能の謡本の節付記号を参考にして、狂言謡の稽古を行っている。その謡本^[2]の中から3つを一例として図1に、節付記号の一例を表1に示す。

能のテレビ教養講座では、洋楽に類似した譜面上に節付を行ったもの(図2)^[3]を基に普及活動を行っている。

この2点を基に狂言謡のひとり稽古の方法を提案する。

2.2 システム設計の基本指針

2.1からシステム設計にあたっては、能の謡本の節付記号を活用する、教養講座での横書き譜面を参考にすると、ということの基本指針とする。

能謡の節付記号は数多く存在し、吉野天人では50種類以上使われている。狂言では能に存在する節付記号の極々一部を使用している。その内、初心者・中級者が使用する節付記号の一部を表2に示す。謡エディタには、初心者が最低限必要な8つの節付記号を実装する。表2の備考欄の○印が、初心者にとって最低限必要な節付記号である。なお、三線譜を利用することで音の高低が見て分かるため、上・中・下は表示させないことにする。



図1. 能の謡本(土蜘蛛, 大仏供養, 吉野天人)の一部

表1. 吉野天人で使われている節付記号の読み方と意味

画像	番号	記号	読み方	意味
	1	ー	始まり	台詞・謡の始まり
	2	上	じょう	上(じょう)の音で謡う
	3	スラリ	すらり	すらりと謡う
	4	ー	そのまま	前の音と同じ高低で謡う
	5	ゝ	下がる	前の音より下げて謡う
	6	下	げ	下(げ)の音で謡う
	7	○	区切り	文章の区切り
	8	ハル	はる	張り上げるように謡う
	9	オ	おさえる	浅くおさえて謡う
	10	ア	あたり	拍子にあたりながら謡う
	11	ヲ	おとす	おさえて謡う
	12	丨	つまる	つまるように謡う
	13	フ	廻シ	上がり強めて謡う
	14	中	ちゅう	中(ちゅう)の音で謡う

羽衣 クセ (ヨワ時)

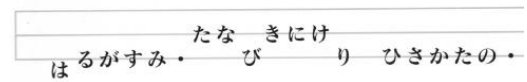


図2. 能謡の楽譜(羽衣)の一部

表2. 初心者・中級者が使用する節付記号の読み方と意味

記号	読み方	意味	備考
ー	そのまま	前の音と同じ高低で謡う	○
／	上がる	前の音より上げて謡う	○
＼	下がる	前の音より下げて謡う	○
<	上がって下がる	前の音より上がって下がって謡う	○
>	入り	上がりを強めて謡う	
マ	母音を繰り返して伸ばす	母音を伸ばして謡う	○
—	つまる	つまるように謡う	○
上	じょう	上の音で謡う	
中	ちゅう	中の音で謡う	
下	げ	下の音で謡う	
・ー	伸ばす	伸ばして謡う	○
・ー	良く伸ばす	良く伸ばして謡う	○
強吟	ごうぎん	力強く発声する	
和吟	わぎん	なめらかに発声する	
ハル	はる	張り上げるように謡う	
サラリ	さらり	さらりと謡う	

3. 狂言謡節付表現エディタ

狂言謡節付表現エディタ(以下、謡エディタ)は、狂言謡の譜面を容易に作成するためのツールである。本章では、謡エディタの設計・実装について述べる。

3.1 ユーザーインターフェースの設計

謡エディタの概要を図3に示す。譜面を作成する流れは次の通りである。

- ① 歌詞を読み込み表示させる。
- ② 歌詞1行をクリックし、三線譜の下に1文字ごとにボタンで表示させる。
- ③ 三線譜下の歌詞1文字をクリックし三線譜に反映させる。
- ④ 節付記号の一覧から節付記号をクリックし、三線譜上に反映させる。
- ⑤ 1行分が終わるまで③・④を繰り返す。
- ⑥ 1行分が終われば、行を進め②～⑤を繰り返す。

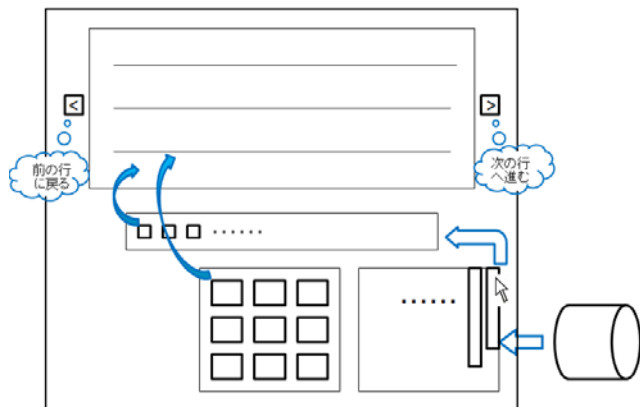


図3. 謡エディタの概要

3.2 クラスの設計

謡エディタのクラスの関係を図4に示す。謡エディタは図4のように主に5つのクラスから成り立っている。

歌詞を表示するクラスは、txtファイルから読み込んだ歌詞を表示し、歌詞1行がクリックされた時に歌詞1行をボタンで表示するクラスにクリックされた歌詞を通知する。

歌詞1行をボタンで表示するクラスは、歌詞を表示するクラスから通知された歌詞を表示し、歌詞1文字がクリックされた時に譜面1行を編集するクラスにクリックされた文字を通知する。

節付記号の一覧クラスは、節付記号がクリックされた時に譜面1行を編集するクラスにクリックされた節付記号を通知する。

譜面1行を編集するクラスは、通知された歌詞・記号を表示し、それを移動・削除することで譜面1行を編集する。行を移動する場合は、現在の行の歌詞・記号を譜面を記憶するクラスに記憶させ、移動先の行の歌詞・記号を譜面を記憶するクラスから読み込み表示させる。

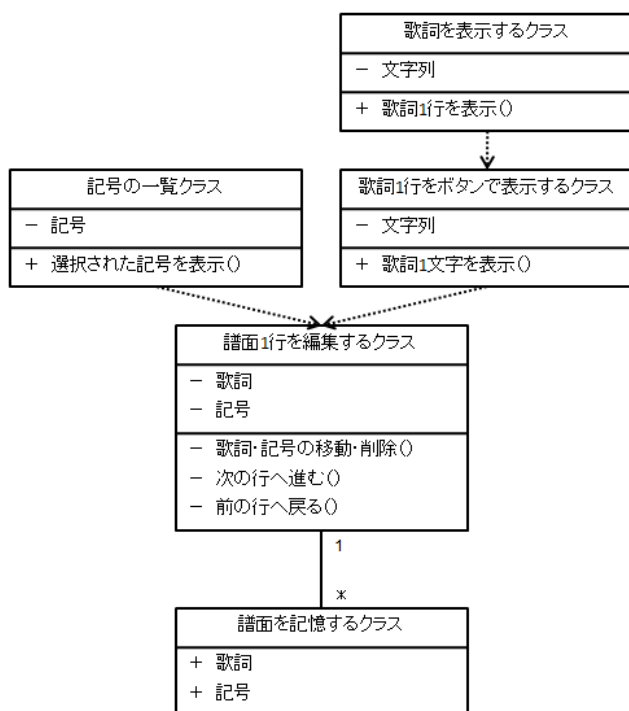


図4. 謡エディタのクラスの関係

3.3 謡エディタの実装

謡エディタは、3.1と3.2を基にC#で実装した。図5は、実装した謡エディタの画面である。今回実装したのは、譜面を作成する部分の歌詞表示領域、譜面操作領域、記号選択領域である。音の高低や音の長さは自由に選択できるほうが良いため、三線譜上の歌詞・記号はドラッグすることで移動できるようにした。

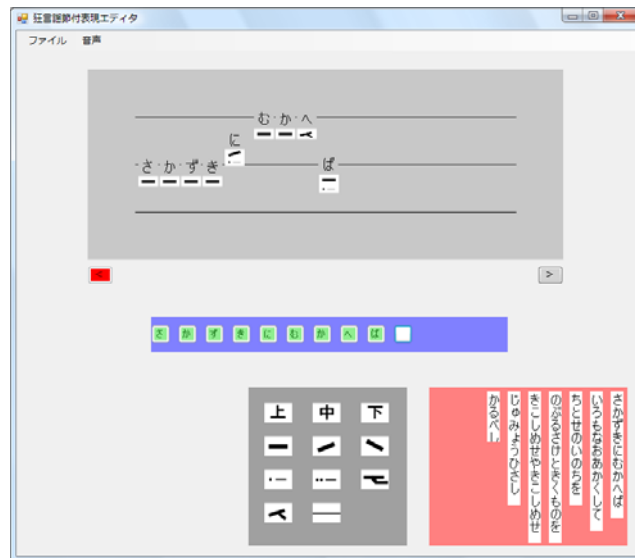


図5. 謡エディタの画面

4. 狂言師による評価

謡エディタは、野島先生からのヒアリングを参考にして機能を実装した。実装した機能の操作性について野島先生から意見を伺い、システムの目的、対象は問題ないかを確認した。

4.1 評価方法

まず、筆者が謡エディタを操作し譜面を作成する一連の流れを説明した。次に、野島先生に謡エディタを使用してもらい、数行譜面を作成してもらった。最後に、野島先生に操作性などの質問を行い、意見をいただいた。

4.2 評価結果

野島先生からいただいた意見の一部を以下に示す。

- 歌詞・記号を移動する際に上下左右の歌詞・記号に合わせづらい。
- 三線譜は音の高低の関係がわかりやすい。謡本は縦書き表記だが、横書き譜面の違和感はない。
- 印刷した譜面をひとり稽古に用いることで、稽古の時に師匠から教わったことを思い出すきっかけになるのではないかと。

5. おわりに

狂言謡のひとり稽古支援システムの設計から狂言謡節付表現エディタの基本的な機能の実装を行った。評価の結果、操作性に関していくつか問題点が浮かび上がり、改良を行う必要があることがわかった。今後、狂言謡のひとり稽古支援システムや狂言謡の楽譜をandroid端末で利用することが考えられる。

本研究は、科研費交付金「19300289」の補助を受けている。関係者各位に深く感謝する。

参考文献

- [1] Kan Ayai et al.: A Study on applying IT to lessons of "Komai" Short dance, part of "Kyogen" a Traditional Japanese Drama, "Emotion Research in Practice" International Symposium for Emotion and Sensibility (IESE2008), Proceeding KAIST, 4D, pp.318-324(2008.06)
- [2] 観世左近: 大成版観世流初心謡本上, 檜書店, (1978)
- [3] 野村四郎: 仕舞入門II, 日本放送出版協会, p.74-77(1990)